

総合学科制高校から本科基本コース (15 講座) ×2 の高速学習で

中央大学 文学部 合格！

船田 美樹



「私はみんなの様に優秀ではないけれど、この数ヶ月目標に向かって精一杯頑張ります。よろしくお願いします。」
本科コース生初めてのホームルーム。恥ずかしさで顔を真っ赤にした船田はそう挨拶をした。「人前で話をするのが大の苦手と自己紹介を終えてから聞きました。最初はかわいそうなくらい俯いていて、悪いことをしちゃったなって思ったんですけど、よく頑張ったと思います。自信なげにしていますけど、ホントはすごく強いんですよ、彼女。」と話す担任。これから先の約10ヶ月間、良きライバルとなり、良き友となるメンバーへの自己紹介から船田の浪人生活は始まった。船田の第一志望は中央大学の文学部だ。学習開始時点での学力と志望大学の差は偏差値で12以上。一般的に、偏差値10の差というのは合格率にすると限りなくゼロに近いとされる。それでも、三者面談の機会に父親の考えを聞き、「どうしても中央大学にいつてほしい、合格させたいと思うようになりました。もう、本当に…絶対です！」と担任は語る。「この子は今までの人生で何かに挑戦する、立ち向かって行くという経験をしていない。何かに必死に喰らいついていくっていう経験です。笑顔にもどこか諦めがちな感じがあって…だから結果ははっきり言うとどうでもいいんです。ただ、目標に向かって挑戦する、そういう経験をさせたいんです。」それが彼女の父の想いだった。船田の学習は、すべての教科において基礎レベルからのスタートとなった。東進では、本人の頑張り次第でどこまでも学習を進められる高速学習ができる。偏差値12の差を埋めるにはこの学習方法しかないが、この学習法をもってしても、本科基本コース15講座では到底間に合わない。それが偏差値12の壁なのだ。—基本の15講座を二つ分—それだけの学習量が絶対条件である。

英語は高速基礎マスターで基礎的な単語、熟語、文法を効率よく覚えていくことから始めた。さらに、複数の基礎の講座で知識の定着を図ることを目的に取得した。「世の中には、努力をせずに成果が上がる人はいない。船田さんも努力をすれば、必ず結果が出せる。一回で理解できなかつたら、二回、三回、繰り返せばいい。船田さんの今、努力するべきところはそこだよ。繰り返すということ。そして一回で出来なくても、諦めない強い心を持つことだよ。」数々の面談を振りかえり、印象深い言葉をそう話してくれた担任。そしてこう続ける。

「私はみんなの様に優秀ではないけれどというあの言葉がずっと引っかかっていました。大学受験なんて頭が良いとか悪いじゃないですから。船田さんには絶対それをわかってもらいたかった。」

確認テストがクリアできず、授業のレベルを下げる苦渋の決断をしたこと。そこで流した涙。「悔しくて、情けなくて、辞めようと思うこともありました。」と彼女。それでも彼女は現実を受け止め、前に進むことをやめなかった。平均睡眠時間は4時間足らず。人の2倍・3倍の努力が必要ということは2倍・3倍の時間も必要と考えたからだ。担任の心配にも関わらず、笑顔で「大丈夫です。出来ます。」と答えた彼女は、自己紹介の時とはまるで別人のようだった。

9月に入ると、過去問に充てる時間が増えたが、彼女はこれまでの基礎講座の復習を怠らなかつた。担任が伝えた繰り返しが当然のことになっていた。そして中央大学の試験。思った以上に落ち着いて受けることが出来た。今までやって来た事、身につけた事を全部出し切ったという手ごたえがあった。

結果、第一志望 中央大学文学部 合格。

偏差値12の差を彼女はたったの10ヶ月で埋めたのだ。努力の量から考えれば2年にも3年にも匹敵するはず。「本当にありがとうございました。」そう言い、立ち去る彼女の顔には、どこか諦めがちな以前の笑顔とは全く違った、勇気と自信に満ちた表情が浮かんでいた。「成長しましたね、彼女。」と言うと、担任はとめどなく溢れる想いを全て飲み込むかのように一言、「はい。」とだけ答えた。

東進を選んだ先輩たちの合格体験から、2 ランク、3 ランク上の大学を君の手に !!